

令和元年度 氷見市教育総合センターだより 第5報

第2回 ICTを活用した授業づくり研修会

9月20日(金)

提案授業 6学年理科「電気とわたしたちの生活」

氷見市立宮田小学校 荒田幸平教諭

第3回 ICTを活用した授業づくり研修会

11月1日(金)

提案授業 5学年社会科「自動車をつくる工業」

氷見市立窪小学校 澤武佑紀教諭

講師 東京学芸大学 准教授 高橋 純 先生

1学期の西條中学校に引き続き、第2回、第3回の「ICTを活用した授業づくり研修会」が「ICT教育推進協力校」である宮田小学校、窪小学校で行われました。それぞれの学校では、提案授業を基に、ICTを効果的に活用した授業づくりの在り方について研修しました。

宮田小学校で行われた理科では、micro:bit(マイクロビット)を使ってプログラミングを行い、電気を効率よく使うことについて考えました。事前準備をしっかりと行ったことで、子供たちはとても楽しそうに実験に取り組んでいました。

窪小学校で行われた社会科では、タブレットPCを資料集として使いました。調べたい目的に応じて情報を読み取り、ノートにまとめたり、発表し合ったりしました。日常的にタブレットPCを使用することにより、子供たちのスキルの向上が感じられました。

講師の高橋先生からは、授業に関する指導や最新の情報等について話していただきました。これからも、「誰にでもできて効果が上がるICTの活用方法」について研修を進めていきたいと思えます。参加者の感想の一部を紹介します。



- ・どの教科においても探究的な学習のサイクルを意識することが大切だと思った。
- ・知識の理解の質を高めるための手段としてICTを使うことができるように研修を深めたい。
- ・子供たちのICT活用力やプレゼン能力をもっと高めていきたい。

「とやまの子供ネット対策フォローアップ事業」

竹内義博先生による講演会

会場：比美乃江小学校

11月19日(火)開催

11月19日(火)、比美乃江小学校において「とやまの子どもネット対策フォローアップ事業」を開催しました。ネットトラブルについての知識と理解を深め、対応力と未然防止対策の充実を図ることを目的に、5、6年生が、一般社団法人 ソーシャルメディア研究会 チーフ技術指導員 竹内義博先生の講演を聞きました。

講演では、比美乃江小学校の5、6年生のアンケート結果から現状を理解した上で、ネットに写真等を投稿することの危険性や、ネット依存にならないための方法について、動画を見せながら話してくださいました。子供たちは、竹内先生の問いかけに答えながら集中して聞いていました。講演後も、たくさんの子供たちが感想を発表したり、質問したりしました。

ネットには「光」と「影」があります。ネットを楽しく有効に使うためにも、学校や家庭で決めたルールをしっかりと守ってほしいと思えます。



演題 「“挑戦”することの大切さ～自分の可能性を信じてみよう～」

講師 KNB事業部(元水泳競技オリンピック選手)荒瀬 洋太 氏

氷見市では、教育振興基本計画の基本理念として、「ふるさと氷見を愛し 次代を担う人づくり」を掲げています。このことを受け、中学2年生を対象に、平成24年から各界の著名人や一流選手等を招いた講演会を開催しています。

本年度の講演会は、元水泳競技オリンピック選手でKNB事業部の荒瀬洋太氏を迎えて、「挑戦し続けること大切さ」について講演していただきました。荒瀬氏は、「自信」「ピンチはチャンス」「気付き」の三つのキーワードで、水泳選手として、そしてアナウンサーとして体験されたことを話されました。

中学2年生は、「14歳の挑戦」を体験し、社会の一員として、将来の自分の姿や生き方を考え始めています。この時期に、荒瀬先生の生き方や考え方に触れたことで、生徒は、視野を広め、自分を振り返り、これからの目標や夢について改めて考える機会となったと思います。



<講師について>

【プロフィール】

富山県立水橋高等学校を卒業後、筑波大学体育専門学群へ進学。大学1年次の2000年にシドニーオリンピック日本代表に選ばれ、1500m自由形に出場。自己ベストの15分18秒20を出したが決勝には進めず16位となった。大学卒業後、富山大学大学院を経て北日本放送に入社、アナウンサーとなった。

【略歴】

- 2000年 シドニー五輪 競泳男子1500m自由形 16位
- 2004年 日本選手権 競泳男子1500m自由形 2位
- 2005年 日本選手権 競泳男子800m自由形 2位、1500m自由形 2位
- 2008年 北日本放送入社

将来の自分の姿や生き方を考え始めた生徒たちの思いは・・・

<講演を聴いての生徒の作文より> 一部抜粋

私は、まだ将来の夢をはっきりともっていません。そんな自分に、これまではマイナスな印象を抱いていました。しかし、荒瀬先生のお話を聞き、「これから自分のやりたいことを見つけることができるんだ」とプラスな気持ちになりました。これからの自分の可能性に希望をもって、自分で自分の可能性を狭めずに生活し、近い将来自分のやりたいことを見つけていきたいと思いました。(南部中学校)

印象に残ったのは「大事なものは結果ではなく、そこにたどり着くまでの過程だ」という言葉です。私は、結果ばかりに執着してしまうところがあったからです。例えばテストでも、点数ばかりを気にするのではなく、どのように勉強に取り組んできたかが重要なのだと思いました。今回の講演を通して、過去の自分を振り返り、これからの自分を考えることができました。自分の可能性を信じて、いろいろなことに挑戦していきたいと思います。(南部中学校)

私は、荒瀬先生のお話を、今の自分に重ね合わせて聞きました。そして、「最終的には、自分で考え、自分で決断し、自分を信じる」ということが大切だと思いました。私が所属する部活動では、「すべてを改める」ということをみんなで決めました。そして、自分たちの目標を定めました。その目標は、今の自分たちには届かないような目標ですが、自分たちの可能性を信じて、目標に向かって努力していきたいと思います。(北部中学校)

水泳選手としての荒瀬先生は、中学校時代は真ん中ぐらいだったにもかかわらず、高校に入ってから2度の全国優勝を果たしたということは、かなりの努力をされたのだと思いました。講演後、「つらいとき、何が支えになりましたか。」と質問しました。荒瀬先生は、「自分で自分を信じることだった。」と答えてくださいました。これからの人生で、困ったり、前に進めなかったりすることがあると思いますが、自分を信じてがんばりたいと思いました。(北部中学校)

壁にぶつかったときに前を向くためには、「自分を信じる」ことだと話されました。その言葉から、自分を信じるためには、それまでの努力が必要なのだと感じました。練習を120パーセントで行えば、本番は80~90パーセントの力が発揮できるという言葉は、これからの自分の行動につながっていくものでした。苦なことや嫌なことにぶつかったときにこの言葉を思い出し、一生懸命取り組んでいきたいと思いました。(西部中学校)

監督がいないときに、チームメイトが練習の手を抜くことがあります。そんなとき、注意した方がいいとは思いますが、「真面目すぎる」などと言われるのではないかと考え、結局言えなくなってしまう。そんなときこそ友達と高め合うことが大切だと思いました。何事もあきらめずに、ピンチをチャンスに変えていけるように努力をしていきたいです。そのことが、自分の自信にもつながると思います。(西部中学校)

荒瀬先生は、コーチがいないときに練習メニューをカットするチームメイトに対して、自分はまだ練習したいのだという気持ちを伝えることができなかつたと話しておられました。相手に嫌われてしまうかと不安に思い、言えなかつたそうです。練習したくてもできないつらさを感じました。私も、試合で後悔しないために、日々の練習を120パーセントの力で行っていきたいと思いました。(十三中学校)

私は、陸上競技大会の前やテストの前には、とても緊張します。しかし、11月10日に行われた春中ハンド県代表決定戦は緊張しませんでした。それは、練習で自信をつけ、仲間を信じていたからだと思いました。もしも準備が甘かったとしたら、体が震え、心臓もバクバクしたと思います。しっかりと練習を積み重ねていくことや、自分の可能性を信じるのがどれほど大切かを改めて考えさせられました。(十三中学校)

荒瀬先生は、全治3か月の手の骨折、野球をあきらめきれない心の葛藤等、様々な困難があったにもかかわらず、その辛さを乗り越え、ピンチをチャンスに変えたからこそ、オリンピック出場という栄光につながったのだと思います。私は、自分に自信がなく、ネガティブな考えをもつことが多いです。自分を信じるのが「自信」になるので、そんな気持ちをもって夢に向かって日々努力していきたいと思います。(西條中学校)

「練習で手を抜いたら、本番でも自分の知らないうちに手を抜いてしまう」「負けた試合では直したらいい点を、勝った試合では良かった点を考える」という二つのことが心に残りました。私はバレー部に入っているのですが、「練習だからミスしてもいいや」と思うことがあります。失敗したときでも成功したときでもその理由を考えることで次に生かせると思うので、自分のプレーができるように、練習や試合を大切にしていきたいです。(西條中学校)

ふるさと教材「We Love HIMI!」を活用した外国語活動の公開授業 11月19日(火)

授業者 氷見市立窪小学校 森永 真未 教諭 ALT Kei Arcilla
講師 富山大学大学院教職実践開発研究科 教授 岡崎 浩幸 先生

窪小学校5年1組で、氷見市教育総合センター制作「We Love HIMI!」を活用した外国語活動の授業が行われました。

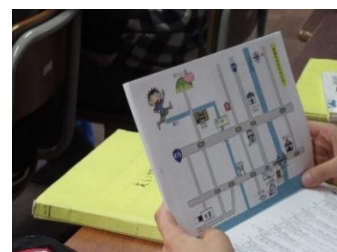
○単元「Where is the treasure?」

○授業の流れ

- 1 帯活動 Small Talk (ペアでの Q&A 形式の対話) をする
A : What do you want to buy at Mc?
B : I want to buy nuggets.
A : Nuggets! It's delicious.
- 2 学習課題を確認する
相手が理解しているか確認しながら、氷見の町を案内しよう
- 3 建物 Go カルタで建物の名前を発音する
- 4 道案内の基本的表現を練習する
Go straight. Turn right/left.
- 5 「We Love HIMI! : 番屋街への道案内」の動画を視聴する
- 6 氷見の町を案内する
氷見のイラストマップを使って、ペアで氷見駅周辺のお店への道案内をし合う。
- 7 振り返り



帯活動 : Mc で何を買いたい?



巻末のイラストマップを活用



Where is the sushi shop?

講師の岡崎先生からは、小中連携で外国語教育に取り組むこと、やり取りの活動で RCQ (Reaction, Confirmation, Question) を意識することの必要性等について、指導助言をいただきました。参加者の感想の一部を紹介します。

- ・地域教材を用いることで、こんなにも子供が興味を示し、意欲的に取り組むことができることに驚いた。どの学習でも地域教材を用いるのはよいことだと思う。
- ・たくさんの活動があるのに、無理がなく、困っている子供も見られなかったのは、帯活動と声を出してたくさん慣れ親しむ活動をすること、また ALT と連携すること等、日頃の実践の積み重ねだと思う。大変勉強になった。
- ・3・4年生では「慣れ親しむ」、5・6年生では「使って楽しむ」ということを大切にしていきたい。

お知らせ

令和元年度 教育論文・教育実践記録募集について

日頃の地道な教育実践に基づいた自主的な研修を奨励し、顕彰するとともに教員相互の資質向上を願って、今年度も皆さんの教育論文・教育実践記録を募集します。奮って応募ください。

(募集要項)

1 規格

- ・ A4判サイズ、本文12ページ以内
- ・ 字数は40字×40行とし、写真、図、表などを本文に挿入する場合も枠内におさめる
- ・ 提出は2部(綴じたもの、綴じてないもの各1部)、概要(A4判1枚)2部

2 応募締切 令和2年1月8日(水)17:00まで

3 提出先 教育総合センター

※ 詳細は、第4回 小・中学校長会議資料をご覧ください。

